



講演会

日本語の訳語法

— 漢語から洋語へ —

富谷 玲子

言語研究センターでは11月27日に本学名誉教授高野繁男先生をお招きし「日本語の訳語法 — 漢語から洋語へ」というテーマでご講演いただいた。高野先生は江戸時代から明治時代にかけての訳語法研究の第一人者として広く知られる。

江戸時代、オランダから日本にもたらされたヨーロッパの最先端技術にともなう様々な語が、日本人の蘭学者らによって翻訳された。明治期には、哲学や経済学の用語が英語やドイツ語から日本人によって漢語へと翻訳された。このような西洋語から生産された訳語は「和製漢語」と呼ばれ、現

在まで漢字圏諸国に共通する学術用語として使用され続けている。講演会では、蘭学時代と明治期の新語造成方法に関する最新の分析、ならびに現代日本語における語種数的変遷の紹介があり、1990年代以降の日本における訳語の特徴として、洋語（カタカナ語）が急増しているとの指摘があった。本講演会は学生と教員40名以上が参加する盛会となった。特に学生にとっては、普段気づきにくい日本語の特徴について学ぶ貴重な機会となったことと思われる。

